

区政区議会報告・地域情報を週刊で発行しています。ご意見をお寄せください。



日本共産党荒川区議会議員
斉藤くに子
区政ニュース

メール: arajcp@tcn-catv.ne.jp

区議団http://www.jcp-arakawakugidan.jp/くに子ブログhttp://s-kuniko.jugem.jp/



2019年9月22日No1194号

区役所直通3802-4627
fax3806-9246

★法律・生活相談会★

弁護士の定例相談は第4月曜日

9月24日(火)

★荒川区荒川17-37-1(コミバス花の木停留所前)

Tel/Fax 3806-5134

★生活相談は随時随時に対応します。ご連絡ください。

★別の日程でも弁護士事務所の予約を取りますのでご連絡ください。



ご意見ご要望

○荒川区は黒字なんですね。貯金ばかりしないで、区民のためになることをやって欲しいです。
○私も75才になりました。「老人力」がありますよ。社会貢献に頑張ります。

荒川区長寿祝いの会

元気で長生き出来る社会にしたい

9月17日にサンパール荒川で長寿慶祝の会が地域ごとに3回に分けて開催されました。

75才以上【うち100才以上】				65才以上
	男	女	合計	
南千住	2,114【2】	2,966【21】	5,080【23】	9,813
荒川	1,667【2】	2,638【17】	4,305【19】	8,287
町屋	1,548【1】	2,493【13】	4,041【14】	7,603
東尾久	1,334【0】	2,208【11】	3,542【11】	6,694
西尾久	1,399【1】	2,286【6】	3,685【7】	7,091
東日暮里	1,194【2】	1,941【13】	3,135【15】	6,156
西日暮里	869【2】	1,443【9】	2,312【11】	4,611
合計	10,125【10】	15,975【90】	26,100【100】	50,255
最高齢 男性104才【町屋・東日暮里】				
女性107才【西日暮里】				

対象になる75才以上の区民は昨年比べて437人増えました。5年前からは約4千人増です。

戦前、戦中、戦後の苦難の時代を、家族と社会のためにつくしてきたみなさんです。

高齢者は「多年にわたり、社会の進展に寄与してきた者」「豊富な知識と経験を有する者」

	男	女	合計
60～69才	6,104	5,864	11,968
70～74才	6,046	6,141	12,187
75～79才	4,691	5,775	10,466
80～84才	3,096	4,783	7,879
85～89才	1,647	3,235	4,882
90～94才	563	1,600	2,163
95～99才	118	492	610
100以上	10	90	100
合計	22,275	27,980	50,255

として「敬愛されるとともに、生きがいをもてる健全な安らかな生活を保障される」と老人福祉法には明記されています。高齢者が安心して暮らせる社会をつくることは政治の重要な責任です。

暮らせる年金

安心の医療介護からの逆行を続けている安倍政権ですが、地方自治体から高齢者が大切にされ、安心して老後をおくれる社会のために力を尽くしたいと思います。



幼稚園保育園の給食費無償化 台東区や北区など他区通園でも同様です

区の責任で保育の質向上をすすめよう

区内認可保育園は公立園(こども園含む)13園・公設民営と私立保育園は今後開設の2園を含め44園です。私立園が8割近くを占めています。

2011年から私立保育園を増やしてきましたが、その7割は株式会社の運営となっています。

日本共産党区議団が毎年求めている各保育園の収支状況を見ますと、社会福祉法人の人員費比率が7～8割台、株式会社は5～6割台が多く、3～4割台もあります。

保育や福祉の要は人です。より良い保育のためには手厚い保育士の確保、従事者が休憩や休暇が取れる環境が必要です。

区は、指導検査を2年に1回程度と巡回指導を行っています。区は、極めて不十分です。少なくとも年1回の指導検査と人員費比率が5割以下の保育園の実態の把握と改善が必要です。



児童相談所設置では十分な人的配置と 各地域に子ども家庭支援センター機能を

児童相談所の設置が23区でも可能となり、荒川区はいち早く手を上げ、来年7月開設で準備をすすめています。

区は予防的支援を重視し、妊娠から出産、その後の子育ての全過程を切れ目なく支援するとしています。

そのためには児童福祉司や児童心理士など基準どおりでなく、荒川区の地域特性、子育て世帯の実態に見合った、手厚い人的配置が求められます。

現在の子ども家庭支援センターは児童相談所内に移すことになっていますが、身近で気軽に立ち寄れる子育て支援の拠点が各地域に必要だと思います。

また保健所、保育園、子育てサロン、学校、ふれあい館などに児童相談所内の児童福祉司など専門職員が出かけての相談・支援も必要ではないでしょうか。



所在地: 荒川区荒川丁目50番
敷地989㎡、延床面積2,035㎡(4階建)

住民票などに旧姓記載…旧姓での印鑑登録OKに

11月5日以降、住民票やマイナンバーカードなどに旧姓が併記できるようになります。合わせて、旧姓のハンコで印鑑登録が出来るようになります。独身時代の実印が使えるようになります。また免許証も同時期に同様の表記にする方針です。

印鑑登録申請に性別項目なしに

印鑑登録の申請書に男女の項目を削除します。

性的マイノリティーのこともあります。区の手続き書類全体で性別に○付けをなくす検討が必要だと思います。

①戸籍謄本の写しをもらう→住民票に旧姓併記を請求する。

②旧姓での印鑑登録を行う。

☆荒川区は戸籍住民記録課で戸籍も住民票も印鑑登録も同じ課で取り扱っていますが、まずは旧姓が確認できる戸籍謄本をもらって添付しないと手続きが出来ないそうです。450円の費用がかかってしまいますがゴメンナサイ。

マイナンバー促進も一ツかな

マイナンバーカードに併記出来ること「各種の契約や銀行口座の名義に旧姓が使われる場面で、その証明に使えます。就職・転職時など、仕事の場面でも旧姓で本人確認ができます！」と宣伝しています。政府発表でもカード取得率は13%台(2019年4月)で一向にすすまないことに焦っています。

マイナンバーを取得させようとするねらいもあるのでしょうか。～個人の基本情報の一括管理・個人情報漏えいなど問題の多いマイナンバーカードです～

選択的夫婦別姓の実現を

総務省のホームページを見ると「この政令改正は社会において旧姓を使用しながら活動する女性が増加している中、様々な活動の場面で旧姓を使用しやすくなるよう行われたもの」となっています。

住民票への併記や旧姓での印鑑登録は一步前進ですが、根本的には選択的夫婦別姓導入の法改正が求められます。

夫婦同姓が定められている現行法では改姓しているのは96%が女性です。

政府の世論調査でも賛成が42.5%、反対の29.3%を大きく上回っています。選択的夫婦別姓で不利益を被る人はいないと思います。

国連女性差別撤廃委員会が日本政府に選択的夫婦別姓の導入を勧告しています。

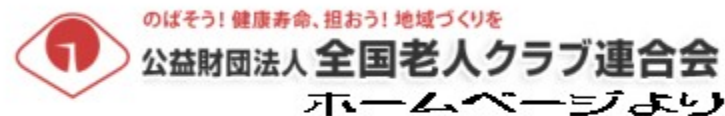
2019年11月5日(火)からスタート!
住民票とマイナンバーカードに
旧姓(旧氏)が併記できます!

住民票にも旧姓(旧氏)併記!
マイナンバーカードにも旧姓(旧氏)が併記されることで、旧姓が各種証明に使えます!

旧姓(旧氏)併記はこんなときに役立つ!

- 就職・転職時の履歴や銀行口座の開設や変更の申請書に記入する。
- 結婚・離婚時など、世帯の届出でも旧姓で本人確認ができます。

荒川区高年者クラブで活動してみませんか



老人クラブの起源は、長寿を祝う平安時代の「尚齒会」(しょうしのえ、しょうしかい)さらには仏教伝来とともに日本に伝わったとされる相互扶助組織「講」にまでさかのぼることができます。

その後、明治26年博多高砂会(福岡県福岡市)、明治40年楽寿老人会(京都府亀岡市)、大正14年上田地区老人会(熊本県小国町)が設立され、現在の老人クラブの基礎が築かれました。

昭和21年 千葉県八日市場町(現匝瑳市)に発足。

昭和27年 全国各地の社会福祉協議会において老人クラブづくりがすすめられる。

昭和29年 初の「老人クラブ数調査」 112クラブ

昭和37年4月 全国老人クラブ連合会設立

(荒川区老人クラブ連合会は6月)

昭和38年 老人クラブに対する国の助成開始

荒川区の高年者クラブは4月1日現在で、78クラブ6126名の会員さんがいます。どこのクラブに加入してもいいそうです。

趣味、文化、レクリエーション、健康学習、親睦、旅行、料理教室、環境美化、ボランティアなどそれぞれのクラブで多彩な活動を行っています。

また連合会としてカラオケ大会や輪投げ大会、チューリップ鑑賞会などを開催しています。60代70代はまだまだ若いから、仕事をしているからと言わず入会を考えてみませんか。

ARAKAWA Koumensha Club
http://arakawen.or.jp/

のばそう健康寿命、担おう地域社会
NPO法人 荒川区高年者クラブ連合会

- 仲間を広げる加入促進
- 健康寿命を伸ばす健康づくり介護予防
- 友愛、奉仕活動による社会に貢献する
- 若手リーダーを養成し
- 魅力ある高年者クラブ
- 地域の関係団体と連携し
- 安全・安心の住みよいまちづくり



台風15号鴨川市に物資を

荒川区では災害時相互応援協定を締結している千葉県鴨川市、大多喜町と連絡を取り合い、支援の必要の有無を確認してきました。

9月12日午前8時30分、鴨川市から連絡があり、自宅で生活している住民への配付用として食糧、水等の応援要請があり、アルファ化米・パンの缶詰・飲料水など2トラック2台で救援物資を送りました。

私の弟は君津市に住んでいて、家の被害は少しでしたが、停電が続き勤務先の学校も休校となり木更津の同僚宅にしばらく避難。東電と政府の対策の遅れに怒っていました。

大きな自然災害が続いています。荒川区も超高層の再開発事業より、防災に強い街づくりに予算も知恵も使うことが求められます。